

議 事 録

件 名	第 32 回（令和 6 年度第 1 回）セーフコミュニティ高齢者の安全対策委員会	
日 時	令和 6 年 5 月 8 日（水） 14：00～15：30	
場 所	久留米市役所 303 会議室	
出席者	委 員	濱本委員長、内田委員、漆原委員、桑島委員、羽江委員、喜田委員、時安委員 藤原委員、西村委員、関委員、古賀委員
	事務局	（長寿支援課） 植松補佐、鹿毛補佐、稲益主査、岡本、野田 （安全安心推進課） 豊福主幹、新村補佐、古賀、田中
欠 席 者	山下委員、稲田委員、権藤委員	
傍 聴 者	無し	
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>（1）2023（令和 5）年度実績及び 2023（令和 6）年度方針について</p> <p>（2）認知度向上・取組の裾野拡大について</p> <p>（3）合同対策委員会について</p> <p>3 閉会</p>	
質 疑 員	<p>1. 開会</p> <p>2. 協議事項</p> <p>（1）2023（令和 5）年度実績及び 2024（令和 6）年度方針（案）について</p>	
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 点目に、虐待、認知症に関する啓発の取り組みの状況について、どのような取り組みをされているのか。 ・ 2 点目は、主な統計データの 19 ページ、図の 9-2 のところで、虐待の発生率の推移が下がってきたが、令和 4 年に少し上がっている理由は。 	
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 点目について。 市民向けの啓発は大切な部分と認識している。 虐待の関係では市民向けの虐待防止啓発の出前講座や介護サービス事業所向けにも虐待防止研修、家族介護教室、認知症に関する講演会、サポーター養成という形で、例えば民生委員や地域の方など、広く市民の方向けのサポーター養成を行ってきて、更にそれを強めるためにオレンジ協力を養成していく講座も実施している。 こういった啓発については、要介護とか、認知症になる前、家族をケアする前の段階で受けていただき、要介護や認知症などの方に優しい街にしていくために、今後も継続していきたいと考えている。 ・ 2 点目について 令和 3 年から 4 年の上昇について、明確な理由は不明だが、おそらくコロナの影響で、令和 3 年の報告件数自体が落ちたのではないかと思う。令和 4 年は 5.7%と、前年比で上昇しており、今後の流れを確認していく必要はあるが、長期的には減少傾向にあるのではないかと考えている。 コロナの時に、なかなか虐待が見えにくいような課題があったので、把握に努める部分で、報告件数が減っていった方がいいのか増えた方がいいのか、どちらが良いかの判断が課題と考えている。 	

議 事 録

<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナで家族同士の接触が多くなったとは考えられる。その時は仕方がなかったというのもあるが、人の助けを借りられないときに虐待が増えることは実証として確実に言えるかと思う。なるべく、助けが借りられるように、安価で介護制度が使えるように、いろんな形での助けの方法を制度として選べるメニューが必要だ。 ・ 夫の介護サービスは朝の 8 時からだったが、既におむつは濡れており、介護の方が来るまで待っているとベッドや布団、シーツまで濡れてしまい、介助もその後の洗濯も大変になるという体験を何度もした。私がおむつの交換をして介護の方に掃除や洗濯をお願いするなど、介護の内容や時間を臨機応変に変えられたらスムーズになると感じた。
<p>委 員 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護をされているご家族を孤立させない、というところは、とても重要な点だと思う。 ・ 高齢者の安全対策で、この情報を生かすとすれば、例えば、介護サービスの利用者のご家族からの介護に関する相談件数などが記録できるようになると、相談件数が増加することで相談しやすい環境になっているということも分かる。虐待の発生は抑えたほうがいい、けれども相談件数は増えたほうが良いという見方ができるようになれば、とても意味がある。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から、認知症介護電話相談を日曜日に変えたら相談が増えるのではないかと、試みにやってみたが、そうそう増えてはいない。 相談しやすい人を持つということは、元気なときに相談しやすい関係を作っておくこと。介護が必要になってから相談したいと言っても、その人の生き方の問題だと思う。人にお世話になりやすい関係を健康なときに作っておくこと、「私は自分でできるからいい」という生き方ではなく、誰にでもお世話になれるということ。 ある講演会で、哲学者の鷲田清一さんの話を聞いた。自身が入院したときのこととして「自分を人に委ねて、ペールに包まれたような感覚で介護が受けられたらいいな」との話を納得した。 やはり、健康なときの人にお世話になれるようなつき合いや生き方が、後の介護と関係してくると思う。 ・ また、親しくしている方に介護サービスが必要になった際、その方の家族と交流がないと、日頃から話していた本人の意向が叶えられない。 昔からの付き合いで本人がどのように思っているか分かっているので、叶えたいと思うが、そこに家族という大きな壁があり、結局、家族の意向とケアマネジャーの方で進んでいく。 市でどうこうすることではないが、仲が良い人の家族との繋がりがあるといいなと感じている。

議 事 録

委 員 長	<ul style="list-style-type: none">・ 貴重なご意見なので、今後の対策に繋げていければと思う。ほかに皆さんから質問はないか。
委 員	<ul style="list-style-type: none">・ 溺死・溺水についてどんな原因があるのか。風呂場で溺れるのか、酔っているとか、それとも転んだりしてとか、発作を起こしたりして沈んでしまって息ができなくなったなど、分かる範囲で教えて欲しい。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none">・ 統計データの分析や意見交換をおこなうセーフコミュニティ外傷等調査委員会の中で、溺死・溺水について議論したことがある。 その時に取り上げた厚生労働省の5、6年前のレポートにおいても、原因は複数あり、服薬の問題や既往症、他には単純な長風呂の問題などが記載されていた。また、一人暮らしなど周りに声をかけられるような方が少ないというような環境など、様々な原因が報告されており、対策も1つではないというのがレポートの結論だった。 外傷等動向調査委員会の委員には聖マリア病院や久留米大学病院の先生が入っているが、先生方も様々な原因があるということ現場で実感しており、対策も1つだけには絞れないという結論になった。 <p>《転倒予防、溺死・溺水対策などについてグループディスカッションを実施》</p> <p>(2) 認知度向上・取組の裾野拡大について</p>
委 員	<ul style="list-style-type: none">・ のぼり旗について 貸出などはどうしたらいいのか。イベントなどでも使えるのか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none">・ 校区コミュニティ組織などにも配布するが、イベントでも事前に連絡をもらえれば貸出分を用意する。 <p>(3) 合同対策委員会について (意見なし)</p>
健康推進課	<p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「のびのびポイント」についての説明 <p>3. 閉会</p>